きらりん通信

倉敷市立倉敷支援学校
令和７年１２月１２日　　第３号

小学部６年　修学旅行　１０月３０日～３１日

わくわくしてバスに乗り込み、須磨シーワールドへ出発！魚やペンギンなど海の生き物を見た後に、迫力満点のイルカショーを鑑賞しました。姫路科学館では、体験型の展示に触れて楽しみました。宿では、おいしいごはんを食べ、大きいお風呂に入り、それぞれの部屋でリラックスして過ごしました。

二日目は、朝からあいにくの雨でしたが、子ども達は疲れも見せず、元気いっぱいに姫路セントラルパークへ！サファリパークでは、事前学習の映像で見ていた動物が実際に車窓から見え、大盛り上がりでした。たくさんの商品の中から家族や自分にお土産を買うこともできました。遊園地では、カッパを着てたくさんのアトラクションに乗りました。

二日間、マナーやルールを守って活動することができ、さすが６年生という感じでした。友達と一緒に過ごし、楽しい思い出ができました。事後学習で写真を見ると、みんなにこにこしています。

中学部３年　修学旅行　１１月１３日～１４日

１１月１３日（木）・１４日（金）に大阪・兵庫方面に行ってきました。

一日目、新幹線に乗って大阪へ行きました。新幹線の中では、楽しみながらもマナーを守って静かに過ごし、新大阪駅では人混みの中、列を守ってバスまで移動することができました。「海遊館」では、ジンベエザメやマンタなど本物の海の生き物の大きさに圧倒されていました。「あべのハルカス」では、展望エリアのパノラマをバックに写真をたくさん撮りました。ホテルでは、おいしい食事、大きいお風呂を楽しみ、ぐっすり眠ることができました。

二日目の姫路セントラルパークでは、グループに分かれて遊園地のいろいろなアトラクションに乗りました。昼食後にはお土産を買い、サファリへと向かいました。サファリでは、ライオンやゾウ、チーターなど、間近で見る動物の迫力に大興奮でした。

楽しみや不安が入り混じる複雑な気持ちで迎えた修学旅行でしたが、事前学習で学んだことをしっかりと生かし、とても有意義な時間を過ごすことができました。

高等部３年　修学旅行　１１月５日～７日

１１月５日（水）～７日（金）に東京方面へ行ってきました。新幹線に乗って岡山駅を出発し、東京に到着したときには、そのスケールの大きさに多くの生徒が胸をワクワクさせていました。

一日目は浅草やお台場での班別活動、二日目はディズニーランドでの班別活動、三日目はアクアパーク品川でのクラス活動など、様々な体験を通して仲間意識や大きな感動を味わうことができました。学校生活の集大成となる貴重な体験となりました。

余暇という名の贈りもの ～音楽が繋ぐ縁～

「余暇（よか）」という言葉は、私が子どもの頃には使ったことがありませんでした。大人になり、学校に勤めてから口にするようになった気がします。改めて、私にとっての余暇とは何か、考えてみました。

高校を卒業して 10 数年ぶりに地元に戻った後、学校現場で非常勤講師として働く機会を得ました。当時は家と学校を往復する日々で、出会う人は中学生と同僚の先生だけ。学生時代は音楽サークルに所属していましたが、地元には活動できる音楽団体がなく、楽器ケースの蓋を開けることもありませんでした。

そんなある時、同僚の音楽教師から「伴奏している混声合唱団があるから来てみないか」と誘われました。私の地元は、昔から「童謡のまち」と呼ばれ、市内にはたくさんの合唱団体があります。思えば、私の母も町内の合唱団体に所属していて、時々夜に近所の人と練習に出かけていたものでした。

数日後、その合唱団の練習に参加しました。集まっていた人たちは住まいも年齢も性別も様々。日中は仕事や家庭で過ごしながら、月２回の夜の練習を楽しみにされている方々でした。本格的に合唱で歌うのは初めてでしたが、そこで感じたのは、合唱の何と気持ちの良いことか。大きな声を出しても叱られず、むしろしっかりと声を出し、息を合わせることで楽しめるものだと感じました。

一つの合唱団に通うようになると、別の混声合唱団や新しく立ち上がった男声合唱団にも誘われ、それぞれ仕事終わりに練習へ通うようになりました。地元で開催された国民文化祭では、市内の合同合唱団として、半年掛けて練習し、大きな舞台に立つこともできました。そのどれもが、仕事とは関係なく、好きな音楽を通じた人との素敵な出会いでした。

その後、縁あって吹奏楽の一般バンドで楽器活動を再開し、採用された初任校では吹奏楽部の顧問となりました。今は地元を離れたため、三つの合唱団には通っていません。しかし、今年の令和７年は、高校生以来の吹奏楽コンクールに奏者として出演したり、近しい人と合唱を始めたりできた年でした。

これから先も、音楽という余暇活動を通じてどのような人と出会えるのか。そのつながりが、今からとても楽しみです。

高等部教頭　酒井　満